
2020/6/18

第 24 回腸内細菌学会学術集会(2020 年 6 月 11・12 日、誌上開催)におきまして、JACCRO GC-08(切除不能進行性胃癌症例におけるニボルマブのバイオマーカー探索を含めた観察研究 [DELIVER 試験])研究代表者である聖マリアンナ医科大学 砂川 優 先生による採便に関するアンケート調査に関する発表がございました。

本アンケートは一般社団法人日本マイクロバイオーームコンソーシアム(JMBC)と特定非営利活動法人日本がん臨床試験推進機構(JACCRO)により開発された腸内細菌叢解析検査の社会実装を目指した便採取担当者へのオンライン型のアンケートです。本アンケートを DELIVER 試験参加施設の医療スタッフを対象として実施し、対象施設の 89.6%より回答が得られました。

アンケートの結果、70%の回答者が今回の試験で用いた室温保存可能な保存液入りスプーン型採便管による検査は、臨床実装可能であると回答しました。また、自宅での採便では、患者への説明、患者が検査の意義を理解すること、トラブル時の対応が検査成功の重要な要素であることが示唆されました。

JMBC はこれからも腸内細菌研究の社会実装に向け活動して参ります。

※腸内細菌学会: <https://bifidus-fund.jp/index.shtml>

※発表情報 : https://bifidus-fund.jp/meeting/pdf/24th/24_2.pdf#page=10

※ご参考 JACCRO 臨床試験情報 <http://www.jaccro.com/clinical/trial-list/gc08/>
